

トキ野生復帰にむけて

35

「中国陝西省におけるトキ野生復帰の取り組み」

昔、中国大陸に広く分布していたトキは1964年以降確認されず、トキは絶滅したものと考えられていました。しかし、1981年になって陝西省洋県で7羽のトキが発見されて以来、保護政策、人工飼育を試み、現在では野生のトキと人工飼育のトキを含めると1,000羽を超えています。

中国陝西省野生動物保護協会の副秘書長で農家との調整を行ったり、野生放鳥の実務者でもある常秀雲さんをお招きして、トキの野生復帰連絡協議会とNPO法人トキの島の主催で8月29日に講演会が開かれました。

講演では、都市部でのトキについての啓発活動のようすや、トキの生息環境の保護、有機農法を広めるための施策などトキ保護に関わる一連の取組みが紹介されました。

1 生息環境の保護

中国では、営巣地・営巣木を農家から買って国有化し、洋県だけで100か所ほどある全ての営巣地で職

員が観察活動を実施しているそうです。

また、有機農業（減農薬・減化学肥料）の普及、助成金支給や資金融資など農家に対する支援策を進めており、さらに農家と行政との調整役として農産物の宣伝や販売先の宣伝などを行って、有機農産物の販売を支援しているとの報告がありました。

2 中国における野生復帰

陝西省洋県では野生トキの生息域に人工飼育したトキの放鳥をしているので、一度、野生下のトキが絶滅した佐渡での野生復帰とは条件が違います。人工飼育から放鳥したトキは、しばらくすると野生トキの群れに入り一緒に行動するようです。

寧陝県は、かつてのトキの生息地でありトキの再導入を図ろうと今年の3月に順化施設が完成し5月末に26羽を放鳥しました。これは、一度、野生下のトキが絶滅した佐渡で行う放鳥と似ています。放鳥したトキの現在の状況について、4羽は能力が低くて順化施設に帰り、2羽の

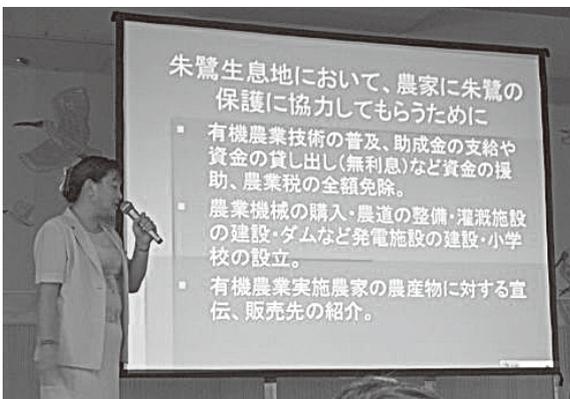
死亡を確認し、7羽が不明で残る13羽の状況を把握しているそうです。

講演後には「中国ではトキによる稲作への被害はないのか」や「サギなど他の鳥類と餌の競合はないのか」など質問がされました。

常さんは「私は農家の専門家ではありませんが、陝西省の農家から聞くところだと、トキが稲苗を倒しても、苗は再び立ち直るとい話を聞いている。日本ではトキが害鳥であるという話を聞くが、もしかして日本の水田と中国の水田では稲の密度などの違いがあるのかもしれない」と話しました。サギ類との餌の競合については「中国では今そのことが問題になっています。実験的に実施している取組みもありますが、

サギを駆除したりするのはなく、野生の環境下でトキは強くなつていくと考えているのでサギもある程度は必要だと考えています」と説明しました。

最後に常さんは「いつも大事だと考えているのが人間活動です。とくに農業活動が大事です。トキと農民がふれあつて、互いに水田の中に入ったりするそんな環境の中でトキは元気になっていくと私たちは常に考えています。中国ではトキが生息できる地域を拡大をしようとしています。トキが中国全土に広がつて、いつしか日本と中国のトキが行き来するかもしれない。その美しい未来を実現できるように私達はがんばりましょう」と話し講演を終えました。



▲8月29日 中国の常秀雲さん講演会

	施設名	羽数
飼育	洋県トキ救護飼養センター	150羽
	楼観台希少野生生物救援飼育センター	238羽
	寧陝県順化施設	60羽
	北京動物園	約 50羽
野生		約 500羽
計		約1000羽

◆市役所 環境課（トキ推進室）
☎ 63-3113